

鏡花水月

桑田 詢也

1年目も無事終えそうになってまいりましたが、振り返ってみると一番印象的なのは武道館で近畿大の奥村さんとすれ違ったときですね。あれは興奮の極みでした。あとはやはり争覇です。来年度は再びI部に上がります。まあ、これ以外言うこと無いっすよね。あーでも、UVERworldのØ choir って名曲ですよ、ほんと。この曲に関しては歌詞がめちゃくちゃ良くて、比喻表現を使った歌詞が特に印象的です。例えば、「人の幸せは人の不幸の上成り立つって？ 僕がこのプリンを食べたら死者でもでるのかい？」など。……ん？ 死者でも？ 死者…も、ししゃ…も、ししゃも、SHISHAMO。ということです。SHISHAMOです。今回はこれについて日頃思うところを言いたいと思います。

まず、SHISHAMOとは何なのかというと、平均年齢21.7歳の3ピースガールズバンドです。もう少し詳しく書くと、バンド名がSHISHAMOでありながら“ししゃも”が食べれないというキテレツな3人で構成されており、特に10代の女子を中心に人気を博しているロックバンドです。10代の女子に人気の理由は主にその歌詞にあり、元々漫画家志望のVo.宮崎による、まるで少女漫画のような、曲に主人公が居てストーリー性のある歌詞が生み出す数々の切ない失恋ソングに、さらに年齢が近いこともあるため、ティーンどもが親近感を湧かし共感しているわけです。ぼくもよく聴いていてライブにも行ったりとハマっているわけです。が、「その中の一人」ではありません。言いたいのはこれです。言い換えると、女子の気持ちを歌っているバンドなのにそれにハマってる男とかマジ草生えるわ的な目が少なからず存在するということです。多少表現が過ぎましたが、要は男でSHISHAMO聴いているやつは異質な存在なようで。これは特にライブに(ひとりで)行ったときに痛感したのですが、ライブ会場で周りを見渡すと、多少予測はしていましたが女友達同士で来ている人 or couple で溢れ返っていました。男数人で来ている人もちらほらいましたが、一方で、同志はいないかと探してみると、結局最後まで見つけることはできませんでした。このときの感じたアウェー感がぼくをこうさせてしまったと言ってもいいでしょう。この現象の原因は、曲に出てくる主人公は基本的に女でありその心情を描かれることが多いため、女子が聴くバンドというイメージが強いからではないかと。てか、ここで思ったのが、じゃあ back number 聴いてる女は何なんだ、という。これで言えば back number 聴いてる女も十分草生やしてる筈。あの人にこう思ってた欲しかった的な理由で聴いているという意見を聞きましたが、いや、それって都合良す……おっと、危ない。はい、話を戻しますとまず物申したいのは、SHISHAMOは歌詞に共感するから聴くという考えについて。聴いてる理由は様々です。ぼくの場合主に声が好きで聴いています。ま

た、曲によって主人公が居るため、感情もそれぞれであり、その結果曲によって変わってくる歌い方も良いです。ぼくはこのエモーショナルな歌声にやられましたね。こういう歌い方に個性というか、そういうのがあるボーカルってずっと聴いてられますよね。**UVER**とかホルモンとか。SiM、ミセスもええなあ。あ、椎名林檎も、この方は外せませんよね。**the peggies** やそんな知らんけど **Hump Buck** なんかも。

さらに、Vo.宮崎がよく、「別に共感してほしくて歌詞を書いているのではなく、漫画やドラマのようにストーリーを楽しんでほしいと思って書いてる」と言っていて、つまり曲の感じ方は人それぞれなのです。歌詞に共感してる人が間違っていると言っているのではなく、それもそれでひとつの感じ方であり、てことは他にも様々な曲の見方があるのです。ホンマに切ないストーリーやなあ〜とか、ここんとこの背景はこんななあってんやろなあ〜とか。なので、SHISHAMOはある意味女子の気持ちを歌っているバンドではないと思いますね、ぼくは。

次に、そもそもSHISHAMOとかそーゆー系統の音楽聴いてんなよなんて思う人もいますかと思いますが、いやいや、方向性の違ったまた別の良さがあるしって感じです。普段かっこいいやつばっか聴いてればなんか物足りなかつたりするかと思いますがそれは見る角度が違うからそう感じるだけなんじゃないかと。これはもう錯覚です、錯覚。鏡花水月の完全催眠に陥っているだけなのです。そう、悦びを知ってしまった時点で“鏡花水月”に五感を支配され、誤認しているのです。

そして唱えたいのは、「SHISHAMO、パンクよりパンク説」です。メッセージ性のある歌詞ではなく、漫画のようなストーリー性のある歌詞の曲を届け続ける彼女らはもはやパンクよりパンクなのです。ロッキンゴ殺しです。また、SHISHAMOも「ただ騒がせるのが最優先のバンドもいるし、“バンドとはこうあるべき”ではなく、いろんなバンドがいるから、バンドって楽しいのかなと」と。先ほどのこととも繋がる名言が飛び出しましたが、“SHISHAMOにしか出せない音楽”をやろうという姿勢はかっこいいですね。ファイターズの中島卓也的。

ここまでいろいろと言ってきましたが、結局何が言いたいのかというと、2017.2.22(水)にSHISHAMOの4thニューアルバム「SHISHAMO 4」がリリースされるのでそちらを是非チェックしてみてください!!!ってことです。部誌で告知をぶち込むことになろうとは……。やはり、あのときのアウェー感がぼくの五感を支配し、こうさせてしまったとしか考えられません。

そして、ほぼ余すところなく言いたいことを言えたところで、今年は、我らがコンパ隊長様を引き連れ改めてライブに行くことを目標に、II部リーグ戦・入替戦で他を圧倒し、I部昇格したいと思います。